

# 医師国家試験対策委員会活動報告

医師国家試験対策副委員長 5年次 下地 香乃子

晩秋の候、同窓会の先輩方、在校生の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私は、現在国試対策委員会の副委員長を務めさせていただきます。この場をお借りして、現在の国試対策委員会の活動状況をご報告したいと思います。

国試対策委員会というのは、医師国家試験に向かう受験生に対して1年を通じてサポートを行うボランティア組織です。受験生の皆さんをサポートするべく、26期生44名一丸となって頑張っています。1年の活動期間中での最大のイベントである2010年度国家試験まで半年を切り、新たに27期生国試対策委員43名を迎えました。「どんな人たちが集まってくれるだろう!？」と、期待と不安の入り交じる中、先日初めて26・27期合同の全体会を開催しました。期待通りの、いや期待以上にやる気と元気に満ちあふれた27期生を見て、今後の活動がとても楽しみになりました。ボランティア組織として、毎年この人数を有志で集める事ができていることは本当にすごいことだと感じます。

ここ最近の国対委員の活動に関しては、10月末に佐賀大学にて行われました九州ブロック会に参加してきました。ブロック会というのは全国の各地方ごとに行われていますが、中でもこの九州ブロック会は結束力も強く、活発な議論が行われています。前回まではマッチングに関する議題が多くを占めておりましたが、今回は主にCBT試験に関する各大学の取り組み方、または卒業試験の実施方法についての2点が議論の中心になりました。特にCBT試験に関しましては、琉球大学では昨年より進級判定に用いられており、他大学に比べると少し厳しい判定ラインが採用されているようです。これに対して、CBT試験に対する大学側からの積極的な対策は他大学に比べると乏しいのが現状です。卒業試験に関しても、期間から問題の種類、大学ごとに様々な特色がありました。国家試験合格率アップのために、各大学の対策の良いと

ころを参考にしながら国対委員として様々な提案を試みようと考えている次第です。

今後の活動予定としては、来年2月に行われる国試に向けて、模試・ビデオ講座の案内、予備校講師による講演会、国試合宿の準備と盛りだくさんの仕事が待っており、国対委員の本領を発揮する季節となってまいります。第105回医師国家試験全員合格を目標にサポートしていく決意です。

また、同窓会からは今年も模試代の援助をして頂き、本当にありがとうございました。ほぼすべての6年生が模試を受験することができ、この結果をもとに、国家試験に向けて取り組んでくれていることと思います。さらに来年度からは既卒生に対する模試代援助の拡充など、さらなるサポートをして頂き、感謝の思いでいっぱいです。

皆様のご期待に添えるよう、全員合格目指して取り組んで参ります。

最後に、私は国対委員副委員長という仕事をやっていてよかったなと感じるのは、どんなにしんどい仕事でも面倒な仕事でも、励ましあいながらやっていけるたくさんの仲間と一緒に仕事ができることです。数々至らないところがある私をいつもフォロー、叱責してくれます。本当に素晴らしい仲間、頼もしい人たちが集まっていて、このような仲間は一生モノだと思います。みんなに「国対委員やって良かった!」と思ってもらえるような素敵な集まりにできるように頑張るのが、副委員長の使命だと思っています。

今後も、受験生のためによりよいサポートができるように国対委員会、一致団結して国試に向かいたいと思います。

